

令和6年度 学校評価 自己評価書(2期)

1 学校の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力の育成 ○ 豊かな心の育成 ○ たくましい生徒の育成 ○ 社会に開かれ信頼される学校

2 課題と改善策

	評価事項	職員	改善策
確かな学力	1 授業時数の完全実施に向けた計画的な教科経営と年間指導計画の工夫・改善	○3.6	・ 教科部会の充実，指導資料の共有化，年間指導計画に基づいた弾力的な教科経営を工夫している。
	2 個に応じた指導の実践	3.3	・ マナビやキュビナ等を効果的に活用する。
	3 SHK (Shimizu 班活動) による学び合い，助け合い学習の場の設定	○3.4	・ SHK活動が教科指導にも生かされ，学び合い・教え合いが充実してきている。ロイロノートを活用により，意欲的に取り組む生徒も増えている。
	4 家庭学習の時間確保と効果的な見届け	○2.9	・ 個に応じた取組（量の調整やタブレットの活用等）を工夫する。
	5 過去問等の計画的な活用	2.8	・ マナビやキュビナ等を効果的に活用する。
生徒指導	1 時と場に応じた「礼を正す」指導の徹底	▼3.3	・ あいさつは良くなってきているが，服装に対してルーズな面が見られた。生徒会の取組を充実させる。
	2 清掃や緑化，室内の整理整頓など「場を清める」指導の徹底	○3.2	・ 清掃等への取組が徹底できていない。清掃のやり方を再度徹底させる。
	3 不登校（傾向）の減少といじめ撲滅に向けた組織的な取組	2.9	・ 様々な要因で登校できていない生徒への支援の在り方について研修を深めることができた。また，様々な行事を通して，所属感や有用感を高め，不登校の増加に歯止めをかけたい。
	4 道徳の充実と適切な評価	▼3.2	・ 様々な行事等と関連させながら，考える機会を設定している。また，ローテーション授業を通して，様々な価値観について触れる機会になっている。
進路指導	1 学年の発達段階に応じた系統的・継続的な指導	3.1	・ 年間指導計画等を見直し，発達段階に応じた取組を意図的に設定していく。
	2 キャリア教育の視点に立った体験活動や学級活動の取組の充実	2.8	・ キャリア教育の視点で各行事を見直し，指導していく。
	3 適切な進路情報の提供	○3.0	・ 積極的な発信に努める。
保健・安全・体力	1 生徒の発達段階に応じた性教育の推進	3.2	・ 計画に沿った取組が推進できている。
	2 安全点検の確実な実施	3.3	・ 定期的な点検が実施され，危険個所の修理・修繕ができています。
	3 安全指導の充実	3.0	・ 様々な訓練等を通して，防災意識や交通安全意識が高まっている。今後も，平時からの指導を継続していく。
	4 部活動での「心・技・体」のバランスの取れた生徒の育成	▼3.2	・ ガイドライン等を守りながら，保護者の協力を得て，活動に取り組む。
地域連携	1 家庭・地域・関係機関との連携の推進	3.2	・ 関係の方々にご協力いただき，学校運営がなされている。PTAが任意加入ではあるが，保護者との連携はスムーズである。
	2 定期的な情報発信（各種たよりや保護者会等の充実）	3.2	・ 説明責任を果たせるよう，定期的な情報発信に努める。

3 次学期に向けての取組

- 各学力検査の分析を進め，補充指導を徹底するとともに，SHK (Shimizu 班活動) による学び合い，助け合い学習をさらに充実させ，主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげていく。
- ICT機器を活用した学習活動を充実させ，家庭学習へも拡大させる。
- 不登校の新規を出さないための居場所づくりや学級づくりを推進するとともに，生徒の所属感や自己有用感を高める取り組みを創意工夫していく。また，不登校生の学校復帰への取組を推進する。